

世代間交流による居場所づくり

地域名 栃木県塩谷町
パートナー 塩谷町企画調整課

25班 コミュニティデザイン学科 相澤千春 今野裕太
建築都市デザイン学科 梶山咲希
社会基盤デザイン学科 池田早希 吉川航太郎

背景

- 〈社会的背景〉
・人口の高齢化
・家族構成の変化
3世代世帯の減少、一人暮らし高齢者の増加

⇒単身高齢者同士の交流を促進する地域サロンの必要性

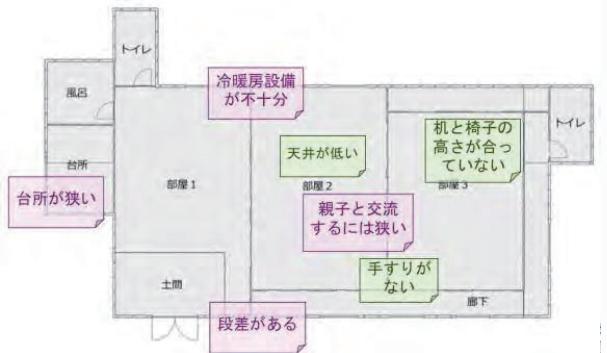
塩谷町の地域サロン「寄ってらっせ」

設立：平成29年4月
活動日：毎月第2・4火曜日
活動場所：民間空家
運営：地域住民(5名)
年に4回 **4世代交流**を実施
塩谷町からの助成あり



結果(1)空間的課題

現地訪問から空間的課題に着目
→追加調査から下図のような改善点を発見



提案(1)

家具の配置換えにより、交流しやすい空間づくりを目指す



課題

配置換えについて

- ・世代間交流における効果の検証
- ・物理的な改善点が残っている
- ・利用者、運営者では身体的負担により、さらなる改善は困難

目的

- ①地域サロンにおける**世代間交流の促進**
→空間的な課題の改善
- ②地域サロン運営の次世代の**担い手確保**
→子育て世代が担い手側に回る仕組みづくり

調査内容と方法

方法

調査内容

- (1)空間的課題
・活動しやすさ
・交流しやすさ
- (2)担い手の課題
①サロンの現状
②子育て世代のサロンへの意識
③利用者のサロンへの意識

対象者	明らかにすること	調査の方法
地域サロンの運営(塩谷町内7か所)	①サロンの現状 空間の課題	アンケート
子育て世代 (子育て支援施設)	②子育て世代の サロンへの意識	アンケート
子育て世代 (サロンのイベント)	②子育て世代の サロンへの意識	アンケート
サロン利用者	③利用者のサロン への意識 空間の課題	ヒアリング

結果(2)担い手の課題

①サロンの現状

- ・担い手が不十分
- ・企画の考案、準備の人手不足
- ・サロンを開催できるのは火曜日

③利用者のサロンへの意識

- ・憩いの場としてサロンを利用
- ・若い親子との交流が楽しみ

②子育て世代のサロンへの意識

- ・子どもの遊び場としての需要
- ・子育て世代同士で繋がれる場の需要
- ・簡単な手伝いであれば意欲あり
- ・平日の参加は困難
- ・サロン自体を知らない

④利用者のサロンへの意識



提案(2)

現在、世代間交流は年4回

→子育て世代に担い手側に移行してもらうためには、
まず**世代間交流を増加し**、地域サロンでの関わりを深める必要性

①子育世代にサロンを開放し交流スペースに

頻度：2週間に1回
日時：日曜午前

期待される効果
・子育て世代同士のコミュニティ形成
・地域サロンに来るきっかけとなる

②子育て世代と普段の利用者合同で活動・交流

頻度：月1回
日時：土日

期待される効果
・世代間交流の促進
・子育て世代が次世代の担い手に移行しやすくなる

担い手側について

- ・考案したプログラムが未実施のため効果が不明
- ・考案したプログラムの期待される効果は交流促進にとどまる
- ・子育て世代を担い手側に移行できるような仕組みづくりが必要